






場面：お凜様ご入浴

番号	画面	内容・台詞	時間
1		大浴場。石造りの外風呂。 たけるときりおが湯に浸かり、女湯の通路をちらちら見ている。	
2		ガラガラと女湯の戸が開く。 お凜様「お待たせ～」 お凜様とかんなが入ってくる。 手拭い一枚で前を隠し、他は生まれたままの姿。お凜様の肩から腰まである凄惨な刺青の額彫りが目立つ。	
3		たけるときりおは、お凜様とかんなの裸に釘付け。	
4		お凜様とかんなが湯船に入り、たけるときりおの目の前にちょこんと座る。 お凜様「ええ湯じゃのう～」 お凜様がまったりする。 かんなは恥ずかしそう。	
5		たけるときりおは緊張で固まっている。	

場面：お凜様ご入浴

番号	画面	内容・台詞	時間
6		お凜様「女の子とお風呂入ったの初めてか？」 たける「うん……」	
7		たけるときりおが無言でお凜様とかんなに見入っている。	
8		かんな「そんなに見ないで……」	
9		たける「ごめんっ」 たけるときりおが視線をそらす。	
10		かんな「ちゃんと見て……」	

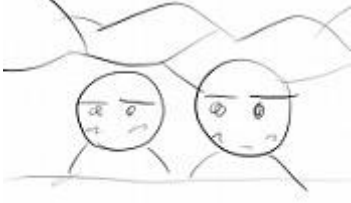

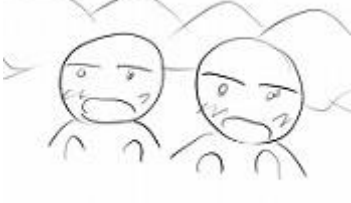

場面：お凜様ご入浴

番号	画面	内容・台詞	時間
11		たける「え？」	
12		たけるときりおがかんなに近付いていく。	
13		かな「恥ずかしいよ……」	
14		たける「ごめんっ」 たけるときりおが視線をそらす。	
15		かな「もっと近くに来て……」	


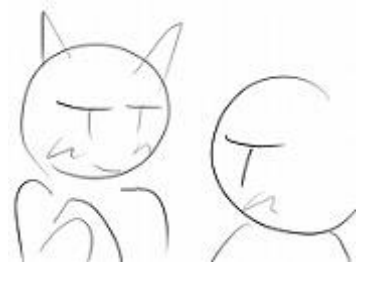
場面：お凜様ご入浴

番号	画面	内容・台詞	時間
16		たける「うん……」 たけるときりおがかんなに近付く。	
17		たけるときりおがお凜様とかんなの間近に ちょこんと座り込む。	
18		たけるときりおがお凜様とかんのを凝視す る。	
19		お凜様「そんなにまじまじと見られると、わ しも照れてくるぞ」	
20		たける「ごめんなさいっ」 たけるときりおが視線をそらす。	

場面：お凜様ご入浴

番号	画面	内容・台詞	時間
21		お凜様「目をそらしちゃいけない。ちゃんと見るんじゃ」	
22		たける「うん……」 たけるときりおがお凜様とかんなを見つめる。	
23		お凜様とかんなが、前に手拭いを当てて、腰から上までお湯から出す。 かんな「どう、かな？」	
24		たける「すごく、きれい」	
25		かんな「嬉しい」 かんなが恥ずかしそうに微笑む。	

場面：お凜様ご入浴

番号	画面	内容・台詞	時間
26		お凜様「目覚めたみたいじゃな」 たける「え？」	
27		お凜様「かんなちゃんは、男の子に見られて興奮するらしい」	
28		かんな「そんなんじゃつ」	
29		お凜様「わしも男の子に見られるの好きじゃよ」 かんな「お凜様も？」	
30		お凜様「受け入れるんじゃ。己を偽るんは辛いで」 かんな「う、うん……」	

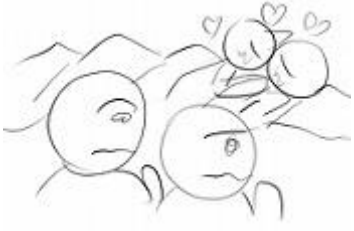
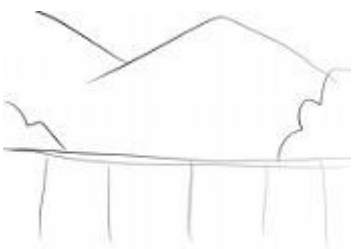


場面：お凜様ご入浴

番号	画面	内容・台詞	時間
31		お凜様「わしとかんなちゃん、凄くドキドキ しとるで！」	
32		かんな「もっと近くで見て」	
33		たける「うん……」 たけるときりおがお凜様とかんなに更に近 づく。 もはや、体に触れそうなくらい。	
34		お凜様とかんなが、手拭いを前からどけて、 すべてをさらけ出す。 嫌がる様子なく、微笑んでいる。 たける「夢みたい」	
35		お凜様「もっと夢みたいなこと、見せてあげ るで」 お凜様がかんなに抱きつき、イチャイチャし 始める。 かんな「あっ、やっ」	

場面：お凜様ご入浴

番号	画面	内容・台詞	時間
36		たけるときりおが息を荒くして、お凜様とかんなのイチャイチャを凝視する。	
37		お凜様「女の子同士でイチャイチャしてるとこ見るの、どうじゃ？」	
38		たける「凄い……」	
39		お凜様「見せるの、たける君ときりお君だけじゃからね！」 かんな「イチャイチャ見てえ……」	
40		お凜様とかんなのイチャイチャが激しい。	


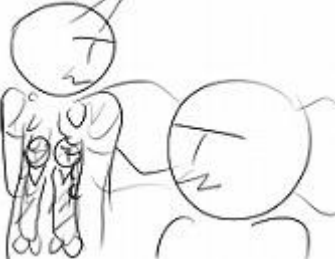

場面：お凜様ご入浴

番号	画面	内容・台詞	時間
41		たけるときりおが興奮して見続ける。	
42		外風呂から見た秩父山地の遠景。	
43		お凜様がまったりしている。 かんながくたっとしている。	
44		たける「凄かったよ。ありがとう」	
45		お凜様「どういたしまして」 かんな「どういたしまして」 お凜様とかんなが微笑む。	

場面：お凜様ご入浴

番号	画面	内容・台詞	時間
46		たける「ところでさ、お凜様、なんで体にお絵描きしてるの？」	
47		お凜様「急に真面目になりおるな」	
48		かな「私もお絵描き気になってた」	
49		お凜様が立ち上がって背中を見せる。 お凜様「こりゃ刺青いうてな、博徒や的屋なんかのやくざ渡世のもんが入れとることが多い絵じゃ。肌に針で傷をつけて墨を入れるけえ、普通は一度描いたら二度と消せん」	
50		たける「針で刺すなんて、痛そう！」	



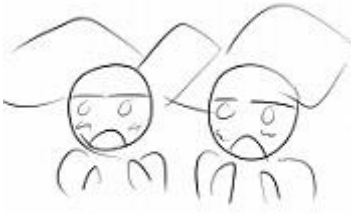


場面：お凜様ご入浴

番号	画面	内容・台詞	時間
51		お凜様「痛いで。痛みに耐えながら描くから『我慢』ともいうんじゃ」	
52		かな「なんで痛い思いしてまで描くの？」	
53		お凜様「やくざもんは、白いもんでも黒いと思わんといけん理不尽な世界に生きとる。渡世の掟のためなら人をも殺す、罪深き輩じゃ。じゃけえ、二度と堅気には戻れんと覚悟を決めるために、二度と消せん刺青を入れるんじゃろうな」	
54		かな「なんでお凜様にそれがあるの？」	
55		お凜様「わしゃ地獄の鬼じゃけえ、悪者を地獄に落とすんが役目じゃ。悪者を裁く以上、悪者と同じ所に身を置かんといけん。世を綺麗に保たんと、血で汚れるんじゃ。じゃけえ、地獄の鬼はやくざもんのような刺青を入れとるんじゃよ」	


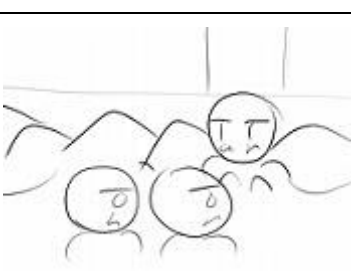
場面：お凜様ご入浴

番号	画面	内容・台詞	時間
56		お凜様がお湯に浸かり直す。 かな「でも、お凜様のお絵描き、なんか優しい感じがする。微笑んでる人が二人と桜の花？」	
57		お凜様がお湯に浸かりながら背中を見せる。 お凜様「観音菩薩と勢至菩薩に花吹雪じゃ」	
58		たける「観音菩薩と勢至菩薩って、聞いたことある気がする」	
59		お凜様「話すとき長くなるが、仏になるために修行している途中の菩薩じゃ。苦しむ人々を救おうとしとるんじゃよ」	
60		たける「なんでその菩薩ってのを描いてるの？」	

場面：お凜様ご入浴

番号	画面	内容・台詞	時間
61		お凜様「内緒じゃよ」 お凜様がお湯から上がる。	
62		お凜様「刺青はやくざもんが入れとることが多いけえ、堅気を怖がらせるからって、今時は刺青があると条例ちゅうんで公衆浴場に入れんようになってる。絵そのものが悪い訳じゃないと思うとるのがのう」	
63		たける「うん。凄くカッコいい」	
64		お凜様「刺青を怖いと思われるんは、刺青を入れるもんたちの資質の問題じゃろう。堅気に迷惑かけずに真面目に生きとりゃ、煙たがれることはないんじゃ」	
65		たける「お父さんたちはお絵描きないよ」 お凜様「堅気であろうって意志の表れじゃな」	

場面：お凜様ご入浴

番号	画面	内容・台詞	時間
66		お凜様「わしのは肌を傷つけん靈的な刺青 じゃけえ、見せるんも消すんも自由自在 じゃ」 お凜様の刺青が消えていく。	
67		お凜様「けど、わしゃ自分の絵がお気に入り なんじゃよ」 お凜様が女湯へ向かっていく。	
68		お凜様「一緒にお風呂入れて楽しかったで」 お凜様が振り返って微笑む。	
69		たけるときりおとかななが湯船に残っている。 お互いに無言でいる。	
70		たける「出よっか？」 かな「うん……」	